

「マイノリティ」のボーダーから社会を見つめる

タレント・文筆家 牧村朝子氏

ボーダーは人と人の間にも存在する。最近話題

に上る「LGBT」は、レズビアン、ゲイ、バイセクシュアル、トランスジェンダー 【図参照】の頭文字をとって、性的マイノリティを総称する言葉だ。

日本人の七・六%を占める¹とする調査もあるこのボーダーに公共政策はどう対応していくべきか。女性同士の結婚をした、タレントで文筆家の牧村朝子さんの視点を通して考えていく。

言葉の重さが違ういま

牧村さんのお仕事と、それを通して目指す社会の姿を教えてください。

書くことと話すことがお仕事です。どういうものを目指しているかということですが、私、女の人と結婚をしていますけど、妻と二人でおばあちゃんになって、縁側でお茶を飲みながら、その時代の若い女の子たちに「レズビアンってなに」って言われたいですね。それくらい女の子が女の子を好きになったときにそのこと自体で悩まずに、ただ人を好きになっただけってことだと受け止められる。「自分はレズビアンかどうか」というところで悩んじゃうのが今ですけど、そのステップそ

ろそろいらないうと思って。

それはレズビアンという言葉もない社会ですか。

なくなればいいとは思ってないです。自分がレズビアンだっていることを誇りに生きている方もいるので。でもいま（名乗ることが）必須事項になっていきますよね。本当は、ヘテロセクシュアル（異性を好きになる人）だって、自分がヘテロセクシュアルですって胸に掲げて生きていくことだって選択としてはできるけど、その言葉すら知らない人が大多数でしょ。（レズビアンという言葉も）そうなったときこそ、本当の平等なのかなと思う



取材に応じてくださった牧村朝子氏

て。言葉の重さが違うので、いま。

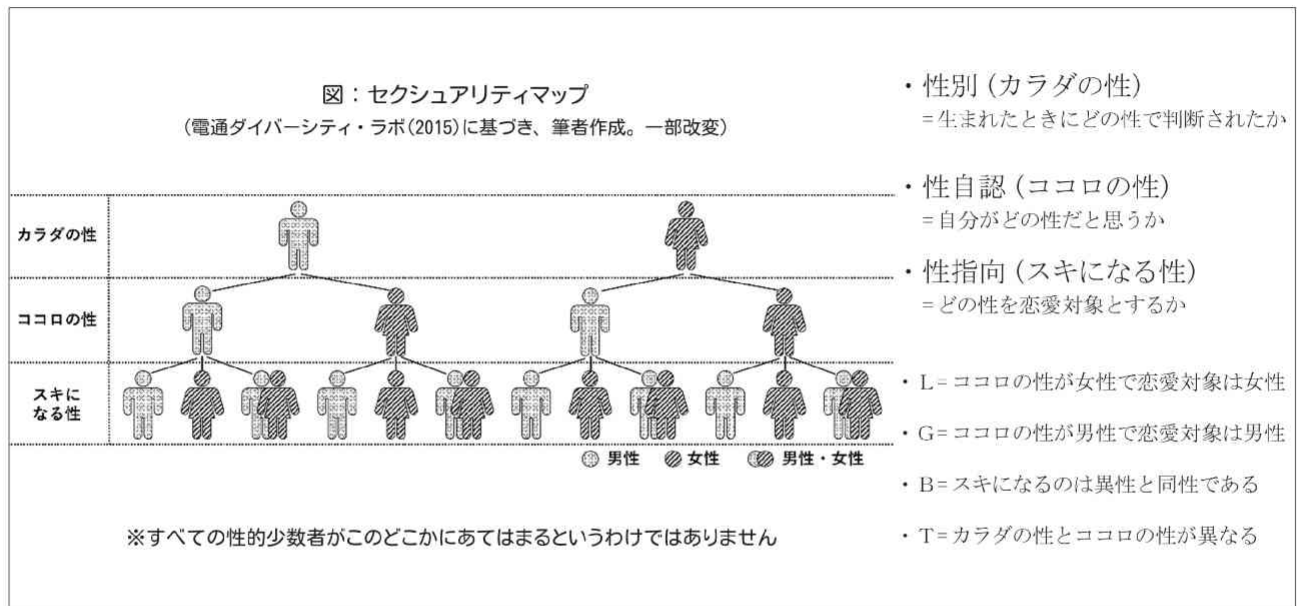
性別による不平等はLGBTだけの問題ではない

社会に発信したいことで、今、特に考えていることはありますか。

LGBTという言葉がすごく言われるようになりしました。でも、LGBTと呼ばれる人たちが苦しい思いをしているのは、その人たちがLGBTだからではありません。世の中に性別による不平等があるからですよね。たとえば、日本の婚姻制度についていろいろ性別によって不平等なところがあるでしょう。男の人と女の人で結婚できるようになる年齢が違ったり、夫婦別姓のこともやっていますよね。性別のことで困るのってLGBTだけじゃない。男の人が育休取れないとか、社会に出て成功した女の人が、どうせパトロンがいるんだろと言われてしまうとかね。

チーム「LGBT」の戦略

では牧村さんは、人を分けるLGBTという言葉



をどのように捉えていますか。

LGBTという言葉は、私個人としては、人間の種類を指す言葉ではないと思っています。ある種の連帯の在り方を示す言葉。「麦わら海賊団」²みたいな。性別による困り事が社会のなかにあつて、その中で、LとGとBとTは問題が似ていて、じゃあ僕たちチームになって戦いにいきませんか。連帯の在り方を示すチーム名だと思っています。

今、そういうチームが出てくることによって、行政が動いていますよね。

そうはなっていますね。だからLGBTという言葉は、戦略としては、結果を出しています。例えば、LGBTという言葉が広がった後に、法務省がLGBTQ³の啓発動画⁴をYouTubeに公開したり、文部科学省が学校現場に対して性同一性障害の児童生徒に関わるガイドラインを出したりしました。いまが頑張りどきだと思っています。

このままだとゲッターができる

公共政策の問題として、例えば同性婚の法制化などのマイノリティに対する新しい制度に市民の理

解がついていかないことがあります。

目につくのは、みんな苦労しているのに、なんでLGBTの人だけ、という声です。フランスで、二〇一三年に同性婚法制化の議論をしているときに、『同性婚じゃなくて仕事をくれ』って行進している失業者がいた。LGBTチームの人たちの存在が社会のなかで見えてきて、その人たちに対する公共政策が組まれるようになってくると、なんであの人たちだけ、とやつかむ人が出てきてしまう。

個人的な社会に対する辛さと新制度に対する批判を切り離していないことですか。新しい制度が、現状の社会に受容されるようにするにはどうしたらいいのでしょうか。

私が思うには、(LGBTといわれる人々を)別の一種として扱うべきではないんですよ。例えば、今後LGBT差別禁止法のような法案が出るなら、「性別、性自認、性指向」^{図参照}による差別禁止法⁵って言った方がいい。自分がLGBTに入らないと思う人たちも、性別のことで困ることがあるわけなので。性別による不平等から、みんなが守られますよという言い方にした方がいいと思いますよね。性別、性自認、性指向とかで人の扱いを変えることがあるからこそ、あなたレズビアンなんだ、人と違う、というものが生まれてく

るわけでしょう。性別、性自認、性指向で人を見るような考え方がなければ、そもそもLGBTについて言葉も必要とされなかった。

社会全体を含めるべきということですか。

そうですね。このままのやり方だと、たぶんゲッ
トーができちゃうと思います。LGBTという人
たちがいて、こんな困り事があるので、こんな対応
策や政策が必要です。じゃあLGBTの人は渋谷
や世田谷⁵にいつてくさい、LGBT相談ダイ
ヤルがあります、LGBT介護センターあります、
LGBT向け出会いパーティーあります、LGBT
Tの世界で生きてねってなっちゃう。それだと、
根本的な問題をなにも解決していない。そんなこ
とやつても社会にある性差別はなくなっていないの
で、たとえば引き続き男性は育休をとりづらいわ
けですよね。根本解決をしないといけない。

今の制度ではつちりの人と困っている人

新しい制度を導入する場合、既存の制度で恩恵を
受けたり、古い制度を守りたいと思っていたりす
る人に対して、現状を変えることについてどのよ
うに納得してもらえるのでしょうか。

私はまず教えていただきたいです。なんでいま

の制度ではつちりなんですか。私はどつちかつ
ていうといまの婚姻制度で困っている側ですよね。
いまの婚姻制度ではつちりだ、心地がいい、助かつ
たっていう人たちの意見が分からないので、聞き
たいなと思っています。その話を聞くことなしに、
(現状維持派を) 納得させようとはしたくない。

結婚して、子供が生まれて、子供もそれぞれ結婚
してっていうその完璧感が自分の幸せだと思うか
ら、制度の現状維持を守りたいということですか
ね。

まあそうですね。中学校卒業します、大学
出ます、就職します、結婚します、子供生まれま
す、っていうのが、安定した幸せだということだ
すよね。でもそれは、選択的夫婦別姓が可能になっ
てもできることですし、婚姻ができるようになる
年齢が、男女両方一八歳からでもできること。別
に不平等のまま推し進める意味もないことなのに
と私は思います。

ボーダー強化はもったいない

アメリカの最高裁が同性婚を認めました⁶。日本
もそれに続けという議論もありますね。

言っていますよね。ストーリーとしては分かり

やすいですけど、私は乗らないです。婚姻制度と
一言で言っても、国によって全然違うんですよ。

日本と比べて海外の方がLGBTのボーダーのな
い世界だと見えそうですが。

海外が自由で、日本が不自由だとは特に思っ
てはいません。フランスでも同性カップルが暴行さ
れていますし、アメリカではトランスジェンダー
が自殺に追いやられていますし、イギリスはL
GBTであることを理由に迫害された難民を前に
「あなたがLGBTであるという証拠は？」とか
聞いてますから。アメリカはこうだから、イギリ
スがこうだから、日本もこうしようって言ってし
まった瞬間に、アメリカやイギリスに対してボー
ダーを引いて、統一化して見てしまう。アメリカ
にもいろんな人がいるよね、っていうことが見え
なくなってしまう。もったいないと思うんですよ
ね。

ムダな時間を持つこと

最後に、牧村さんの原動力は何ですか。

好奇心ですね。私、十歳で初めて女の子を好き
になった時、同性愛者っていう言葉に捕まった気
がしたんです。人間が同性愛者と同性愛者じゃな



牧村 朝子
まきむら・あさこ

一九八七年、神奈川県大和市生まれ。タレント・文筆家。オフィス彩所属。
二〇一三年にフランス人の女性と結婚。自身の経験や視座を基に、執筆や講演活動をしている。
著書に『百合のリアル』（星海社新書、二〇一三年）など。

い人に分かれている。それは人種のようなもので、そこにきちつとボーダーが引かれている。でも、同性愛者って言葉がいつできたか知っていますか。なんと一八五〇年とか六〇年とかなんです。ボーダーは引かれていたのではなく、誰かが引いたものなんだと知って。それはすごくわくわくする体験でしたね。知ったことによって、ものの見え方が変わる。知ったことによって自分の感覚が変わる。知ることってなんて素敵なんだろうって思っています。図書館の本を見回したときに、ここにある本を私は一生かけても読めないなと思って、すごく震えがきたんですよ。

日常の業務に追われるなかで、自分の好奇心とのバランスは大切ですね。

この書類やらなきや、あれにハンコもらわなきやとかね。だから金にならない時間を持つことです。

いつも外に出ようとしたいし、いつも無駄な時間を持つことを忘れたくないです。自分のすでにいる世界でやるべきことは確かにたくさんあると思いますが、常に外を見ていかなければいけないと思う。いかに外を見ようとして、いくら歩いても、全部は歩き回れないくらい世界は広いから。

（取材：十一月十九日・文責：寺田実穂子）

脚注

¹ 電通ダイバーシティ・ラボ『LGBT調査2015』
<http://www.dentsu.co.jp/news/release/2015/0423-004032.html>

² マンガ『ONE PIECE』（集英社）において主人公ルフィが偉大なる航路に出るために結成した少数精鋭の海賊団。

³ 既存のセクシュアリティの定義に当てはまらない

いと感じる「Q」の人々を含めた性的マイノリティを包括した表現。「Q」は「Questioning」（性別などに確信が持てない）または「Queer」（原義「変わり者」）を表す。

⁴ 「人権啓発ビデオ」あなたが あなたらしく生きるために 性的マイノリティと人権
<https://youtu.be/G9DhghAxlo>

⁵ 日本で行政が同性パートナーを初めて認めた動きとして、二〇一五年四月、渋谷区がパートナーシップ条例を成立させた。続いて世田谷区でも十一月から「同性パートナーシップ申請書」の発行の取り組みを始めた。

⁶ 二〇一五年六月、アメリカ連邦最高裁の判決で、同性間の結婚を認めない州の法律は、法の下での平等を掲げる憲法に違反すると判断された。これにより当国では事実上同性婚が認められることとなった。